

# 小学校英語における日常生活語彙の指導 —語彙選定と英語カルタの開発・活用—

西垣知佳子<sup>1)</sup> 中條清美<sup>2)</sup> 檜村雅子<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>千葉大学・教育学部 <sup>2)</sup>日本大学・生産工学部 <sup>3)</sup>柏市立柏第五小学校

## Teaching Daily Life English Vocabulary to Japanese Elementary School Children —Creation and Use of ‘Karuta’ Cards—

NISHIGAKI Chikako<sup>1)</sup> CHUJO Kiyomi<sup>2)</sup> KASHIMURA Masako<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>Faculty of Education, Chiba University <sup>2)</sup>College of Industrial Technology, Nihon University

<sup>3)</sup>Kashiwa Daigo Elementary School

日本人英語学習の弱点として、日常生活語彙の不足が指摘される。その対応として、小学校英語活動における日常生活語彙の指導に期待が寄せられている。本研究では、基礎研究として、小学生に学ばせたい日常生活語彙500語を客観的に選定し、それらに基づいて、英語カルタ教材を開発するものである。本教材は伝統的なカルタ教材の利点に加え、次のような特性を持つ。言語習得のプロセスにしたがってリスニングを重視し、無意識のうちに英語をたくさん「聞く」状況を作り出す、子どもたちの発達段階に合わせて学年を問わず繰り返し使える、他教科と連携させて使える、英語指導の経験のない学級担任が使える等の点である。本稿では、日常生活語彙の選定手順、カルタを利用した語彙指導の方法、具体的なカルタ教材作成の手法について述べる。

English textbooks used in Japanese junior and senior high schools lack sufficient daily life vocabulary words such as *microwave*, *vacuum cleaner*, and *faucet*, etc. English teaching at Japanese elementary schools, which began in 2002, provides an opportunity to teach additional everyday vocabulary. In this study we adapted ‘karuta’, a traditional Japanese card game, to teach daily life vocabulary to Japanese elementary school students. Children can benefit from an enjoyable activity that provides an opportunity for exposure to English while lowering their affective filter. The target words for our daily life vocabulary karuta cards were systematically selected based on corpus linguistics techniques. The karuta cards created in this study are unique. The ‘reading cards’ (yomi-fuda) include information or hints about the target word such as its shape, color, size, usage, environment, habitat, etc. Students listen to these hints spoken one after another by an instructor and quickly choose the corresponding ‘picture card’ (e-fuda) from an array of cards in front of them. Due to the large number and extensive variety of hints listed on the reading cards, the card game can be used with students of different English levels and different cognitive abilities.

キーワード：小学校英語 (English for elementary school students) 日常生活語彙 (daily life vocabulary)  
英語カルタ (English ‘karuta’ cards) 語彙選定 (vocabulary selection)

### 1. はじめに

日本人英語学習者の英語力の問題点として「語彙力の不足」が指摘されてきた。教科書で習った語彙だけでは、相手の言いたいことを理解し、自分の言いたいことを伝えるには十分ではない。なかでも日常生活を生き抜くための「日常生活語彙」の不足は、英語教育研究者や教師から繰り返し指摘されてきた(山家, 1966; 堀内, 1976; 松原, 1987; 鶴田, 1991; 毛利, 2004)。例えば、電子レンジ (microwave), 掃除機 (vacuum cleaner), 蛇口 (faucet) 等の表現を聞いて理解し、会話で使える

日本人はそれほど多くないと思われる。

我が国の英語教科書に日常生活語彙が不足していることを計量的に調査した研究がある。中條・長谷川・竹蓋(1993)では、日本の中学・高等学校英語教科書に出現する語彙が、生活用語、ニュース、現代小説、TIME、映画等18種の言語資料に出現する語彙をどの程度カバーしているかというテキストカバー率を調査した。その結果、生活用語は、他の17種の言語資料と比べてテキストカバー率が極端に低くなっていることを明らかにした。この傾向は、2000年代の英語教科書でも同様に続いているという結果も得られている(長谷川・中條, 2004)。

このような日常生活語彙不足の問題に対して、小学校英語に期待が寄せられている。文部科学省が発行する『小学校英語活動実践の手引き』(2001)には、小学校英語活動では「子どもの日常生活の中の身近な英語を扱

連絡先著者：

うことに重点をおくこと」(p. 3)と明示され、小学校英語では生活に根ざした語彙を指導するとしている。これは、子どもの認知発達を踏まえたもので、語彙の習得は身近なものから、徐々に時間的・空間的の広がりを見せながら発達するので、身近な生活語彙の習得には小学校英語がふさわしいと考えるものである。

一方、どのような日常生活語彙を小学校で指導するのかということに関しては、明確な枠組みはない。小学校英語は「総合的な学習の時間」の中で行われるもので、「教科」ではない。そのため、学習指導要領の中で、小学校英語の「指導目標、指導内容、指導方法」は謳われていない。指導する語彙や表現等、言語材料に関しても枠組みはなく、指導の目安とされる上述の『小学校英語活動実践の手引き』(p. 9)には、「あいさつ」「人間関係」「数字」「場所」等、18のテーマが挙げられ、「場所」であれば「建物、道順、国の名前」に関する語句として library, station, museum, ... Japan, America 等、25の語が例示されているだけである。したがって、小学校で扱う語彙の選択は、教師の判断に委ねられていると言える。

小学校における指導語彙に関しては、松川(1997)、築道(1997)、中山(2001)、アルク(2003)等が、小学生に指導したい語彙のリストを提案している。しかしながらこれらの語彙リストでは、明確な語彙選定の基準や指針は示されていない。

以上のような現状を背景として、本研究グループでは、小学校で指導する日常生活語彙の選定に関する基礎研究を行い、成果を公刊してきた(Chujo & Nishigaki, 2004; Chujo, Nishigaki, Utiyama, 2005; 中條・内山・西垣, 2005; 他)。本研究は、このような一連の基礎研究の成果として得られた小学生用「日常生活語彙500」<sup>1</sup>を実際に教室で指導するための教材を開発する目的で行われた。

以下、第2節では小学生用「日常生活語彙500」の選定について述べる。第3節では、小学校英語における語彙指導の方法に関わる先行研究調査の結果を報告し、第4節で小学生に日常生活語彙を指導するための教材作成の方法を詳述する。第5節で教材の活用例について述べ、第6節でカルタの試用について報告し、第7節はまとめである。

## 2. 日常生活語彙500の選定

我々が独自の方法で選定した「日常生活語彙500」は、

1) 英語絵辞書の語彙(中條・西垣・内山・岩楯・山崎, 2005)、および、2) 子どもの話し言葉コーパスの特徴語(中條・西垣・内山・中村・山崎, 2006)に基づき選定された。本節では「日常生活語彙500」の基礎資料となった上記2種の語彙リストの作成手順を説明した上で、「日常生活語彙500」の選定方法について述べる。

### 2.1 英語絵辞書の語彙

英語絵辞書の出現語彙を調査した井上(1985)、椎名・中條・竹蓋(1988)、松村(2004)等の研究によると、「絵辞書には英語教科書には出現しない日常生活語彙が多く

含まれる」ことが報告されていることから、日常生活語彙の選定には、絵辞書の語彙が参考になると考えた。一方、これらの先行研究では、調査対象となった絵辞書は、海外で出版された絵辞書のみで、調査冊数は多いもので13冊であった。そこで、我々の行った研究では、英語を母語とする米国、英国、オーストラリア、および英語を第二言語とするシンガポール、香港等の海外で出版された英語絵辞書20冊に加え、日本で出版された国内英語絵辞書10冊を合わせ、合計30冊を収集した。

各絵辞書に記載された語彙を入力、分析した結果、海外で出版された絵辞書(20冊)に出現した語の種類は4,691語であり、日本で出版された絵辞書(10冊)では3,897語であった。海外と日本で出版された絵辞書を合わせた30冊からは5,259語が得られた。

一般的に英文テキストの語彙分析では、出現度数の基準として「頻度」が利用される。しかし、絵辞書の場合は、見出し語がイラストや写真とともに提示されているもの、それに句や短文が付いているもの等、記述が不統一であるため、「頻度」に基づく語彙表を作成しても意味のある結果を得られない。そこで、頻度に代わって、「何冊の絵辞書に出現したか」を示す「レンジ」の値を基本統計量とした。レンジの基準では、より多くの絵辞書に出現する語は「より重要」と考えられる。さらに海外の絵辞書と日本の絵辞書は、質的、量的に異なるため、両絵辞書を分けて分析し、当該語が海外・国内絵辞書のそれぞれ何冊に現れたかという「レンジ」を求めた後、レンジを両絵辞書の総冊数で割り、正規化レンジを求めた。詳しくは中條・西垣・内山・岩楯・山崎(2005)を参照されたい。

### 2.2 子どもの話し言葉の特徴語

絵辞書は日常生活語彙を反映するが、印刷された教材であり、書き言葉と考えられる。一方、子どもは親、友達、教師との会話による話し言葉からも母語を学ぶ(Honig, 2001: 68)。したがって、より厳密に小学生のための日常生活語彙を選定するために、実際に子どもが使う言語を反映させる必要があると考えた(Burroughs, 1957: 3)。そこで、子どもの言語獲得を研究するために構築されたCHILDES(Child Language Data Exchange System)コーパスの中の「話し言葉」を「英語絵辞書の語彙」に加えて、子どものための日常生活語彙の選定に使用した。

CHILDESは言語習得研究のための国際的な言語データ共有システムであり、英語をはじめ26ヶ国語の発話データが収められている大規模コーパスで、“The CHILDES database”より公開されている(McWhinney, 2000)。幼児・小学生の話し言葉を収集するために、CHILDESデータベースより“English-American Corpora”の10種のサブコーパスに収められた、2歳～5年生の話し言葉、延べ1,237,837語を分析して、頻度2以上の4,161語を得た。

「子どもの話し言葉」を観察するには、「大人の話し言葉」と比較して、子どもの話し言葉に特徴的に用いられる語(特徴語)を特定する必要がある。本稿では、「対数尤度比」<sup>2</sup>を利用して、子ども話し言葉コーパスに出現

する語の生起頻度と、その語の「大人の話し言葉」コーパスでの生起頻度とを比較し、その出現の度合いが顕著な語を子ども話し言葉の特徴語として抽出した。

比較の基準となる大人の話し言葉コーパスには、British National Corpus (BNC) のspoken componentの1,036万語を用いた。そこから得られた頻度10以上の8,462語(延べ語数9,126,606語)を大人話し言葉リストとして使用した。そして、対数尤度比を利用して、CHILDESにおける子どもの話し言葉の各語の出現状況を、BNCの大人話し言葉での出現状況と比較した指標値(特徴度)を求めた。その値に従って降順に単語をソートし、特徴度の順位を得た。

### 2.3 学年レベルの付与

小学校英語用の語彙選定には、当該語が、小学生が学ぶのにふさわしい語であるか等を確認するために、英語母語話者の子どもの習得学年と比べ学年を付与した。1年から3年の学年レベルの付与には、Harris & Jacobson (1972) の*Basic Elementary Reading Vocabularies*、4年生以上にはDale & O'Rourke (1981) の*The Living Word Vocabulary*を用いた<sup>3</sup>。

### 2.4 日常生活語彙500語の選定

以上の手順をまとめると次のようになる。(1)海外・国内で出版された絵辞書それぞれ20冊と10冊の語彙から、5,259語の絵辞書の語彙リストを作成し、各語に正規化レンジの指標値を付した、(2)子どもの話し言葉コーパスCHILDESより語彙リストを作成し、BNCの大人の話し言葉から作成した語彙リストと比較して子どもの話し言葉の特徴度の指標値を付した4,161語のリストを作成した、(3)さらに(1)(2)の語が英語母語話者の子どもの習得学年と乖離しないように、資料を参照して学年レベルを付与した。

以上の統計量を統合して最終的に「日常生活語彙500」を得るには、(1)のうち外国で出版された絵辞書による正規化レンジの指標値の順位と<sup>4</sup>、(2)子どもの話し言葉の特徴度の指標値による順位の平均を求め、(3)を参照して1年から6年の学年に属する語を上位から順に500語選定した。詳しくはChujo, Nishigaki, Utiyama (2005)を参照されたい。

## 3. 選定語彙の指導法に関する先行研究調査

### 3.1 リスニング重視の指導

子どもの言語習得の過程を観察すると、ただ聞くだけの沈黙の期間(silent period: Krashen, 1982)を経て、発話が始まる。つまり、言語の獲得にはアウトプット以前にインプットが不可欠である。小学校英語活動では、児童に英語を話させることに熱心だが、その前にもっと英語を聞かせることが必要である(松川, 2003: 31)、ある表現をゲームやクイズを通して何度も耳にして音声に慣れ、その表現が使われる場面を理解すると、自然に口をついてその表現が出てくるようになる(影浦, 2006: 11)という指摘を重視し、話す前に何度も耳にする授業(渡邊, 2006: 21)を心がけたい。

小学校における音声インプットの有効性は、1,466名の児童を対象に行った英語リスニングテストのスコアを検証した調査からも明らかで、インプットの多寡に応じてリスニングテストに得点差があることが統計的にも確認されている(勝山・西垣・汪, 2006)。

### 3.2 発達段階にふさわしい活動

子どもは年齢、認知的・身体的発達に応じて興味や関心、そしてできることが異なる。低学年の子どもは楽しければ繰り返しを嫌がらない。ただし、集中できる時間は短い。中学年の子どもは、活動範囲や興味が広がり、協力することができるようになるので、ゲーム的活動を喜ぶ。高学年の子どもは文字に興味を持ち、かなり複雑なこともできるようになる(樋口, 2005: 120)。教師は、このような子どもの発達段階に合わせ、子どもが興味を持って英語活動に取り組めるように工夫する必要がある。

また、小学校の英語活動では自己表現につながる前段階として、歌やチャンツ、クイズ、ゲーム等を用いて音声英語に効果的に触れさせながら、ドリルの学習と同じ成果を得られるように活動を工夫することが望ましい(金森, 2003: 75)。クイズやゲームは子どもの好奇心を刺激し、楽しい英語活動を演出し、英語に興味を持たせる効果があり、さらに、ゲームによってインタラクションやアウトプットが促されると言われる(樋口, 2005: 126)。

### 3.3 力をつける英語活動

「小学校英語を単なる娯楽の時間にしてはならない。本当に楽しい英語学習とは、単調な訓練を楽しく感じさせてくれる知的作業のことであり、ただ楽しく遊ぶことではない」(山田, 2005: 161)という指摘に留意したい。小学校英語はお遊びに過ぎず、効果を期待できないという意見もあるが(大津, 2005; 鳥飼, 2006)、知的に楽しく感じさせる作業を通して、子どもたちの将来のために、実際場面で使える英語力を育成する教材を開発したいと考える。

上述の3.1から3.3の事柄を踏まえて小学校英語における日常生活語彙の習得には、発話させることを急がず、「たっぷり」英語を聞かせることを重視し、子どもの発達段階に合致する、知的に楽しく実力をつけるようなゲーム活動を創造することとした。

### 3.4 語彙学習に関すること

#### 1) 語の知識

語彙指導にあたり、はじめに「語を知っている」とはどのようなことであるかを検討した。Nation (2001: 17)は語彙知識を「形(発音, 綴り, 形態素)」「意味(形と意味, 概念, 連想)」「使用(文法機能, 連語, 使用域)」に分類し、さらに「受容」と「発信」に分け、語彙知識を合計18の構成要素に分けている。このような語彙知識のうち、小学校英語の指導では、「発音」と「意味」の習得が重要であると考えられる。また、音声インプットを重視して、受容力(リスニング力)から発信力(スピーキング力)へと発展させたいと考える。

## 2) 視覚教材の利用

子どもに、ある語の意味を正しく理解させる方法として、Nation (1990:51) が、物、形に切り抜いたもの、身振り、動作、写真、黒板に描いた絵や図、本に出ている絵を挙げているように、意味の正しい理解には視覚教材の活用が考えられる。また、視覚教材の活用は、動機付けにも有効であるとされる(青木・池浦・金田, 1983)。

## 3) カードの有効性

『小学校英語活動実践の手引き』(p.52) は子どもが興味を示し、「乗ってくる教材や教具」のひとつとしてカード教材をあげている。視覚教材のなかでもカード教材は手軽、安価、移動が容易、学習者の発達段階・興味・英語力レベル等に応じて使い方を工夫できる、自作できる等の利点がある。

カード教材には、ピクチャーカード、フラッシュカード、単語カード等があるが、中でもカルタは目と耳を通して学べる、集中して聞く、視覚情報を活用して正確な意味理解が促される、子どもの反応を見ながら理解度をチェックできる、話すことが強要されない、遊びを通して学びが起こる、楽しい雰囲気学習環境を作り出す、繰り返し使える等の利点がある。そこで、本研究では、カード教材のうちカルタ教材を作成することとした。その際、作成するカルタ教材は、学年を問わず使い、種々の遊び方を工夫できる「多目的カルタ」を目指した。

## 4) 指導の方法

英語を使うのは学校の英語の授業だけ、英語を使えなくても日常生活に不自由しないという日本固有の英語学習環境のもと(金谷, 2002)、子どもに英語に触れさせ、定着させ、自己表現できるようにするには、日本人の学習環境に配慮した教材開発が必要となろう。さらに、小学校英語を楽しみだけの「お遊び」に終わらせず、将来の英語学習の基盤作りとするような工夫も必要である。そこで、これまでに日本人英語学習者のために開発され、指導の有効性が確認されている英語の指導法について調査した。

リスニング指導において高い成果を上げている指導の方法に「3ラウンド・システム」(竹蓋, 1997; 竹蓋・水光, 2005)がある。この指導法は、第二言語習得研究、学習心理学、認知心理学、英語教育学に基づいて提唱されたリスニングの指導理論で、この指導法に基づく教材を使い中学生から大学生を指導した結果、高い指導効果が報告されているものである(竹蓋, 1997; 高橋他, 2001; 武井, 2002; 西垣・中山, 2004)。カルタ教材の開発にあたっては、指導効果が実証されている3ラウンド・システムの理念を組み入れて教材を作成することとした。

「3ラウンド・システム」の基本的な考え方は、ひとつの教材を集中的に、深く学習するのではなく、徐々に理解を深めながら、分散学習するものである。同じ教材に対して異なるリスニング活動を与え、知らないうちに何度も繰り返し聞いて同じ英語表現を何度も耳にするうちに、英語表現を定着させることができる。またリスニング活動は徐々に難易度が高くなるように作成、配列されているので、学習者は難しい英語であっても、難しいとは感じずに学ぶことができる。さらにカルタの使用に

際しては、久埜(2002)が指摘するように、単語を単独で提示するのではなく、聞いていけばわかるような英語を使い、英語をたくさん聞かせ、「あれ、英語がわかった」と、無意識のうちに英語を聞いて理解する経験を積めるようにしたい。

## 4. 英語カルタの作成

英語カルタには「絵札」と「読み札」を作成した。作成にあたっては、次の事柄に配慮した。

### 4.1 指導語彙のグループ分け

「日常生活語彙500」の指導には、子どもが持つ意味ネットワークに合致するように、指導する500語をグループ分けした。グループ分けは、記憶への負担を軽減させ、学習事項の定着を促進する効果が期待できる。また、グループ分けすることで、単語の選定や配列が容易になるので、授業計画が立てやすくなる。

グループ分けは、磐崎(2001)にしたがって語と語の「包摂関係(hyponymy)」や子どもが持つ「スキーマ(schema)」に留意して行った。包摂関係に基づくグループ分けとは、vegetableとcarrot, tomato, potato, corn, pumpkinのような「上位語(hypernym)と下位語(hyponym)の関係」にある語をひとつのグループにまとめる方法、あるいは、duck, chicken, goose, parrot, eagleのような「同位語(cohyponym)の関係」にある語をひとつのグループにまとめる方法を言う。スキーマに基づくグループ分けには「スクリプト(script)」と「フレーム(frame)」と呼ばれる方法がある。例えばcook, cut, break, mix, pour, bakeのように「料理」という一連の行為をまとめるような分類を「スクリプト」と呼ぶ。また、sofa, table, rug, clock, mirrorのように1枚の写真に入るような語を集める方法を「フレーム」と呼ぶ。

グループ分けは、はじめに「日常生活語彙500」をpeople, body, animal, nature 等のような「大分類」に分け、その後、大分類をさらに細かく「中分類」に分けた。例えば大分類のanimalは、「中分類」として、pets, farm animals, zoo animals, marine animals, baby animals, birds, insects, body partsに分類された。その結果、中分類のpetsにはpet, dog, cat, mouse, rabbit, squirrel, frog, turtle, goldfish, snailが含まれた(図1)。図1のように、中分類のpetsのような上位語が、その下位分類に重複して含まれることもある(磐崎, 2001:219)。

このような方法で、「日常生活語彙500」を大分類、中

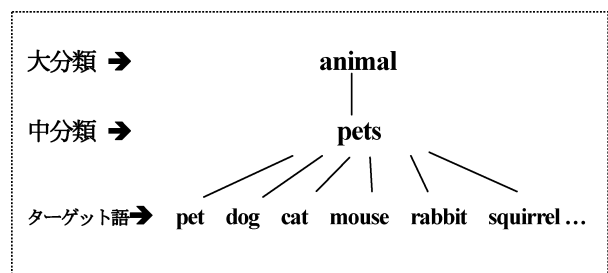


図1 ターゲット語の分類例

分類に分類した結果は付録に示す<sup>5</sup>。大分類、中分類の分類と名称の決定には、*Longman Lexicon of Contemporary English* (McArthur, 1981), さらに井上 (2002), 阪本 (1962), 西垣・中條・岩楯 (2006)等を参考にした。

#### 4.2 絵札に記載した情報

作成した絵札の例を図2に示した。絵札の中央にはターゲット語の意味を明示するイラスト、その下には綴りを記した。綴りを示すことで、英語学習の早い時期から文字に興味を持たせることができる。子どもは低学年であっても、綴りをひとつの模様、パターンとしてとらえて、覚えると言われる (ソニー株式会社教育事業室, 1979)。

イラストの上には、ターゲット語の大分類 (food), および中分類 (vegetable) を示した。大分類と中分類を示すことで、ことばの上位語, 下位語の関係, 同意語の関係等をとらえる学習ができる。またゲームの際には、同じグループのカードを集めれば得点を加算する等のバリエーションをつけることができる。

イラストの下には、関連情報としてターゲット語を含む英語表現の中から子どもに馴染みがありそうなもの, 興味を持ちそうなものを示した。この関連情報の欄は、子どもの認知発達段階に応じて変化をもたせることができる。例えば、図2のようにpumpkin pie や pumpkin seed のような生徒に馴染みのあるカタカナ語を利用してターゲット語の定着を図ることができる。低学年であればパンプキンパイ, パンプキンシードのようにカタカナで表記するのもよい。中・高学年には, giant pumpkin (お化けかぼちゃ), make a pumpkin pie (かぼちゃパイをつくる), さらに a stack of pumpkins (かぼちゃの山), hollow out a pumpkin (かぼちゃをくり抜く) 等の表現を示し, 語と語の結びつきに注目させるような指導もできる (影浦, 2006: 13)。このような表現は中学校以降の英語の授業では扱われる機会が少ない。

絵札の裏には, ターゲット語の綴りを示すこともできる。綴りを利用した英語活動で, 中学校以降の英語学習の準備として, それまでの音声中心の指導から文字指導への橋渡しが可能になる。ローマ字指導を受けた後であれば, 絵札を使って発音と意味を結びつける学習と同時に, イラストの下に示された綴りにも注意を向けさせる。文字に慣れたところで, 絵札の裏に示した綴りを使って, カルタのように “Pumpkin!” と音声聞いて綴りを

探したり, 教師が読みあげる読み札のヒントを聞いて, そのヒントが示す単語の綴りを探すこともできる。またターゲット語の綴りを別の紙で覆って隠し, 覆っている紙を少しずつずらして, 語頭から, あるいは語尾から1文字ずつ見せて, ターゲット語を答えさせることもできる。そして, 子どもの様子を見て, さらに難易度の高い活動に挑戦できるようであれば, 綴りを見てターゲット語を発音する, 綴りを見て意味を言うような活動も可能であろう。

アルファベットの文字認識がその後の読み能力の発達に深く関わる (アレン玉井, 2006) という指摘があることから, 綴りを活用してゲーム方式で楽しく文字に慣れ親しむ活動は, 英語力の基礎を築く活動として有効であろうと考える。

#### 4.3 読み札の作成

読み札の一例を表1に示した。本研究で開発するカルタの読み札は次の(1)から(5)の事項に配慮して作成した。

- (1) 児童の認知発達レベル, 英語力レベルに応じて選択的に使える
- (2) 知的な楽しさを与えることができる
- (3) 学年を問わず繰り返し使える
- (4) 他教科での既習事項の知識を利用できる
- (5) 英語に自信のない学級担任が使える

読み札の左欄には「色, 性質, 料理, 産地, 生息地, 原材料, 使用法」等「ヒントの種類」を示して, 多様なヒントを出題できるようにした。ヒントには低・中学年にも使えるもの, 高学年なら使えるもの等, バリエーションを持たせた。教師は子どもの認知的・社会的発達段階を考慮してヒントを提示できる。その隣の「関連教科」の欄には, 当該ヒントがどのような教科と関連するかを示した。

読み札に記載された「ヒントの種類」と「関連教科」の情報と, 絵札に示された「大分類」と「中分類」を参考にして, 指導するターゲット語の組み合わせ方を工夫すると, 教科横断的な活動やゲームが可能になる。例えば, 大分類の food カードを集め, 読み札の「関連教科」欄から家庭科を選び, 栄養と調理に関連するヒントを集め, 給食の献立表とあわせて「食育」と絡めた指導を行うことができる。同様に大分類の food と中分類の vegetables を集め, 読み札の「教科」欄から社会科を選び, 産地と生産量に関するヒントを集めると, 社会科での既習事項を英語で復習できる。読み札の右欄には「指導記録」欄を設け, 既に使ったヒントや学習したヒントに印をつけて記録を取れるようにした。

ヒントはできるだけ多方面から多種準備した。伝統的なカルタゲームのように ‘Pumpkin!’ とターゲット語を聞いて絵札を取るだけでなく, 「Who am I?」や「20の扉」と呼ばれるゲームのように, 次から次へと英語で出されるヒントを聞く。たとえひとつのヒントが理解できなくても, 次のヒントがあるので, 聞き取れた断片的な情報をつなげて, 正解に到達することができる。ヒントを活用して, 「聞いてわかった」という英語の成功体験を積みませたい。

ヒントにはできるだけ具体的で, わかりやすい容易な

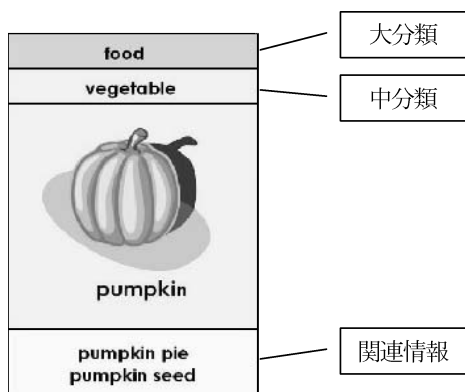


図2 絵札の例

表1 読み札の例：pumpkin

ヒントの種類	関連教科	ヒント	指導記録		
大分類		It's a kind of food.			
中分類		It's a vegetable.			
色		Its outside is yellow or green.			
		Its inside is orange.			
		Its leaves are green.			
		Its seeds are white.			
性質		It's round.			
		It's often big and heavy.			
		Some are small. Some are heavier than a man.			
		The outside is not smooth.			
		It has a stem on top.			
	家庭科	It's a member of 'green and yellow vegetables'.			
	理科	It's a vine.			
	〃	Its flower is yellow or orange.			
料理	家庭科	We can't eat it raw. We always cook it.			
	〃	It's too hard to eat it raw.			
	〃	We can boil it in soy sauce and sugar. It's called "nitsuke".			
	〃	We can make a pie from it.			
	〃	We can eat its seeds roasted.			
	〃	The tea made from its seeds is good for your health.			
	〃	Its season is from June to September.			
	〃	It can be stored for a long time, from summer to winter.			
産地	社会科	Originally, it's from North and South America.			
	〃	It was brought to Japan by the Portuguese in the 16 <sup>th</sup> century.			
	〃	Portuguese brought it from Cambodia to Japan. That is why its Japanese name sounds like Cambodia.			
	〃	Its major production area in Japan is Hokkaido.			
文化	異文化	We can often see it at Halloween parties.			
	〃	We can make a Jack o' lantern from it.			
	〃	Cinderella rides in a carriage made from it.			
	国語科	It's 南瓜 in kanji.			
その他	〃	Its kanji has 'south' and 'squash'. It means a squash brought from south.			
		We see it in the grocery store. ○○○-san likes it very much.			

表現を用いるようにしたが、中には子どもに難しい語彙や表現もある。それらについては、教師がジェスチャー、表情、実物等を使って理解を促す。日本語に訳すことはしない。このような方法で多様なヒントを与え、リスニングの量を確保するようにした。

#### 4.4 エクセルを使った絵札の作成

絵札の作成には、1) 手軽に作成できる、2) 修正、改訂が容易である、3) 費用がかからない、4) 教材の蓄積、共有ができる等の利点を考えて、「Microsoft EXCEL」を使うこととした。身近なアプリケーションソフトを利用して、カラー印刷をすれば、鮮明な絵札を簡単に、また安価に作成することができる。さらに、印刷の際に「倍率」の設定を変えることで、クラス提示用のA4サイズ以上の絵札から、児童が個人、ペア、グループで活動するための名刺サイズの絵札等、自由にサイズを変えて絵札を作ることができる。EXCELを利用して作

成した絵札の見本(図3)と作成方法を以下に示す。

- (1) エクセルファイルを開く。ひとつのターゲット語に1列×5行のセルを使う。行の「高さ」を調整し、図のように4枚並べて、A4サイズの印刷用紙で印刷すると、A6サイズの絵札が4枚できる。
- (2) 1行目にはfood, people, nature 等の大分類を入れる。背景の色はツールバーから「塗りつぶし(色)」を選んでクリックし、好みの色を選択する。
- (3) 2行目にはfruits, vegetables, family 等の中分類を入れる。
- (4) 3行目は、イラストを挿入し、ターゲット語の綴りを入力する。イラストは著作権フリーの素材集ウェブサイト等からダウンロードして使うことができる。また、Microsoft Excelのクリップアートは種類が豊富で、簡単に検索・抽出ができる。ツールバーの「挿入」→「図」→「クリップアート」と選択し、検索オプションに「すべてのコレクション」

	food	food
	vegetable	vegetable
	carrot	corn
	carrot cake	sweet corn
	carrot juice	corn flakes
	food	food
	vegetable	vegetable
	onion	pumpkin
	onion rings	pumpkin pie
	onion soup	pumpkin seed

図3 エクセルを使って作成した絵札の例

「すべてのメディアファイル形式」を選択した後、「検索」のボックスに「かぼちゃ」のようにターゲット語を入力し、「検索」ボタンをクリックする。表示されるイラストや写真の中から子どもの好みを考え適切なものを選択する。

認知発達の段階が進む高学年ではイラストに代えて写真を利用することも考えたい。写真の利用には、比較的低価格の料金で、種類豊富で画像が美しい著作権フリーの画像を提供するshutterstock等を利用できる。

### 5. カルタの活用例

本研究で作成した多目的カルタは、カルタゲームの他にもバラエティ豊富なゲーム活動に使える。本節では久埜(2005)、樋口・衣笠(2004)等で提案されているゲーム活動を参考に、カルタの利用方法について述べる。ここで紹介するゲームはどれも簡単で楽しいものである。

#### 5.1 リスニングのための活動例

- (1) 全児童が名刺サイズの絵札を持つ。教師が言う単語を聞いて、聞こえてきた順番に絵札を並べる。
- (2) 全児童が名刺サイズの絵札を持つ。教師が言う単語を聞いて、「読まれなかった」絵札を上にあげる。
- (3) 全児童が10枚程度の名刺サイズの絵札を持つ。教師が英語で話しをして、児童は話しの中に出てきた単語を出てきた順番に机の上に並べる。
- (4) 1名の児童が前に出て、クラスに向かって立つ。教師はその児童の頭上で、1枚の絵札をクラスに見

せる(前に立った児童には絵札は見えない)。教師が、絵札について、“Is it an animal?”, “Can you eat it?”, “Is it red?”と、Yes-No Questionをクラスに問う。クラスの児童は質問に‘Yes’, ‘No’で答える。前に立った児童は、質問に対するクラスの解答からその単語を推測する。

#### 5.2 単語を記憶に定着させるための活動例

- (1) 絵札(裏に綴りを印刷していないもの)の意味と発音を1枚ずつ確認し、裏返しにして黒板にランダムに貼っていく。絵札の1枚を指して、“What’s on this card?”と質問をする。児童はそのカードが何であったかを思い出して答える。
- (2) 絵札の意味と発音を確認した後、イラストが見えるように黒板に貼る。全ての絵札を貼ったところで、児童に“Close your eyes.”と指示をして、教師は黒板に貼った絵札の1枚を隠す。“Open your eyes.”の合図で児童は目をあけ、隠された1枚のカードが何かを当てる。カードの枚数で、ゲームの難易度を調整する。

#### 5.3 単語を声に出す活動例

児童の英語力に合わせて10枚から30枚の絵札を一列に並べる。児童は2チームに分かれ、並んだ絵札の左端と右端をそれぞれ自分達の陣地として一列に立つ。合図とともに先頭の児童が、並べられた絵札の単語を一つずつ指して大きな声で発音しながら相手の陣地を目指して進んでいく。両チームがぶつかったところで、ジャンケンをして勝者は、続けて絵札の単語を言い、相手陣地に向かって進む。負けた者はチームの最後尾につき、2番目の児童が端からカードの単語を言って敵の陣地を目指し進んでいく。両者ぶつかったところでジャンケンをする。相手の陣地に先にたどりついたほうが勝ちとなる。

### 6. カルタの試用

ALTによる英語活動が年間に4回～5回程度行われている千葉県内の小学校で、作成したカルタ教材を試用して日本人教師が英語授業を実践した。小学校6年生、4クラス、139名が実践に参加し、ヒントを聞いて絵札を取るカルタゲームの他に上記5.1の(4)、5.2の(1)と(2)の活動を行った。

授業後に行った自由筆記の質問紙では、「ゲームがとてもおもしろかった。英語がだんだん楽しくなってきた」「カルタが一番おもしろかったです。またあそびたいです。5枚とれてよかったです」「カードを使ってわかりやすかったです。なんとなく言っていることもわかり、楽しかったです」「英語のカルタは負けたけど、とても楽しかった。少しずつ英語が楽しくなってきた」等の感想が寄せられた。

また「カルタゲームでは、ヒントを聞いて何のことかわかりましたか」という質問に5段階で回答してもらった(5:よくわかった, 1:まったくわからない)。その結果では平均値で4.6という高い評価を得た。上述の感想とあわせて、児童がカルタゲームを楽しんでいたこ

と、非常に限られた時間ではあったものの、聞く経験を重ねながらカルタゲームを楽しんでいたことが推測できる。

## 7. まとめ

本研究では、小学校英語活動における日常生活語彙の指導のための教材を開発した。指導するターゲット語は、「英語絵辞書」、および「子どもの話し言葉コーパス」を基に、子どもに身近な生活語彙を科学的手法に基づき選定したものである。この結果、学習効果の高い語彙指導を目指すことができた。

ターゲット語の指導にはカルタを用いた。カルタ教材は従来も英語活動で活用されてきたが、本教材では、遊びを通して気づかぬうちに英語をたくさん聞く状況を作り出すようにした。また、難易度を調整しながら繰り返し使用できるように工夫をし、国語科、理科、社会科等、他教科の既習事項を英語活動に取り入れられるようにした。さらに、身近なアプリケーションソフトを使ったカルタ教材の作り方も示した。そして試験的に行った実践では、児童から「楽しかった」という感想が寄せられた。

今後は、作成したカルタ教材を年間の授業計画に組み込む形で実践授業を行い、本カルタ教材の指導効果を確認すると同時に、教材を改良していく予定である。

## 謝 辞

本研究の一部は「平成16～17年度科学研究費補助金・基盤研究(C)」援助を受けて行われました。

## 注

- 1 久埜(1999), 小野(2005), 竹蓋・水光(2005)の指摘, さらには中国や韓国の教育課程等(日本の学習指導要領にあたる)で規定されている語彙数等から判断して, 小学校で指導する語彙数の目安として500語程度が適当であろうと考えた。
- 2 対数尤度比は数学的にも安定した指標と言われている(久光他, 1997)。また, 大学英語教育学会のJACET 8000基本語彙の開発でも使用されており(大学英語教育学会基本語改訂委員会, 2003), 英語教育関係者にも広く知られている指標である。
- 3 Dale & O'Rourkeは40,400項目の英語語彙について米国人の75%以上の子どもが理解できる学年を調査した資料である。
- 4 西垣・中條・岩楯(2006)で報告したように, 日本で出版された絵辞書は海外で出版されたものと収載語彙の傾向が大きく異なる。そのため本研究では, 後者の指標値のみを使用した。
- 5 日常生活語彙500には名詞, 動詞, 形容詞以外に機能語や副詞が14語含まれていた。今回はこれら14語に替えて, あらたに14語を加えて500語とした上で, グループ分けを行った。加えられた語には, man-woman, grandfather-grandmotherのようなペアの一方が欠けているもの等, 意味ネットワークから考えて

不完全なものを補うようにして, 最終的に500語とした。

## 引用文献

- アレン玉井光江(2006)「小学生のアルファベット知識について」『ARCLE Review』, 1, 72-81.
- アルク(2003)『アルク児童語彙2000』の初級レベル500語一覧『スクールバスコースガイドAコース』, アルク, 東京.
- 青木昭六, 池浦貞彦, 金田正也編(1983)『英語指導法ハンドブック3〈指導技術編〉』, 大修館, 東京.
- Burroughs, G.E.R. (1957) *A Study of the Vocabulary of Young Children*. London: Univ. of Birmingham, Inst. of Education.
- Chujo, K. and Nishigaki, C. (2004) "Creating E-Learning Material to Teach Essential Vocabulary for Young EFL Learners", *Proceedings of IWLeL 2004*, Tokyo, Japan.
- Chujo, K., Nishigaki, C. and Utiyama, M. (2005) "Selecting 500 Essential Daily-Life Words for Japanese EFL Elementary Students from English Picture Dictionaries and a Children's Spoken Corpus", *Proceedings of Inaugural International Conference on the Teaching and Learning of English in Asia*, Penang, Malaysia.
- 中條清美, 長谷川修治, 竹蓋幸生(1993)「日米英語教科書の比較研究から」『現代英語教育』, 29(12), 14-16.
- 中條清美, 西垣知佳子, 内山将夫, 岩楯弘美, 山崎淳史(2005)「英語絵辞書の語彙」『日本大学生産工学部研究報告』, 38, 77-105.
- 中條清美, 内山将夫, 西垣知佳子(2005)「英語絵辞書と子供話し言葉コーパスを利用した日常生活語彙の選定」『第44回(2005年度)JACET全国研究大会要綱』, 184-185.
- 中條清美, 西垣知佳子, 内山将夫, 中村隆宏, 山崎淳史(2006)「子供話し言葉コーパスの特徴語抽出に関する研究」『日本大学生産工学部研究報告』, 39, 65-78.
- 大学英語教育学会基本語改訂委員会(2003)『大学英語教育学会基本語リスト JACET List of 8000 Basic Words』.
- Dale, E. and O'Rourke, J. (1981) *The Living Word Vocabulary*. Chicago: World Book-Childcraft International, Inc.
- Harris, A. J. and Jacobson, M. D. (1972). *Basic Elementary Reading Vocabularies*. New York: The Macmillan Company.
- 長谷川修治, 中條清美(2004)「学校指導要領の改訂に伴う学校英語教科書語彙の時代的变化—1980年代から現在まで—」『Language Education & Technology』, 41, 141-155.
- 樋口忠彦, 衣笠知子(2004)『小学校英語活動アイデアバンク ソング・ゲーム集』, 教育出版, 東京.
- 樋口忠彦編(2005)『これからの小学校英語教育—理論

- と実践』, 研究社, 東京.
- 久光徹, 丹羽芳樹 (1997) 「統計量とルールを組み合わせて有用な括弧表現を抽出する手法」『情報処理学会自然言語処理研究会資料』, NL-122, 113-118.
- Honig, B. (2001) *Teaching our Children to Read*. Thousand Oaks, CA: Corwin Press, Inc.
- 堀内克明 (1976) 「提示順序と使用頻度—サンマは目黒に限るとのこと」, 『現代英語教育』, 13(6), 4-6.
- 井上一郎 (2002) 『語彙力の発達とその育成—国語科学習基本語彙選定の視座から』, 明治図書, 東京.
- 井上紀子 (1985) 「英米幼児教育図書の語彙調査」, 『帝國学園紀要』, 11, 109-126.
- 磐崎弘貞 (2001) 「語彙と辞書検索指導」, 望月昭彦 (編著) 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』, 大修館, 東京, 216-227.
- 影浦攻 (2006) 「英語活動充実の具体策を提案する」, 影浦攻・小学校英語セミナー委員会編『小学校英語セミナー』, 明治図書, 東京, 10-13.
- 金森強 (2003) 『小学校の英語教育—指導者に求められる理論と実践』, 教育出版, 東京.
- 金谷憲 (2002) 『英語授業改善のための処方箋—マクロに考えミクロに対処する』, 大修館, 東京.
- 勝山ひとみ, 西垣知佳子, 汪金芳 (2006) 「児童の英語力テストの結果に見る小学校英語の効果」『KATE Bulletin』, 20, 113-124.
- Krashen, S. (1982). *Principles and Practice in Second Language Acquisition*. New York: Pergamon Press.
- 久埜百合 (1999) 『こんなふうに始めてみては? 小学校英語』, 三省堂, 東京.
- 久埜百合 (2002) 『こんなときどうする? 子ども英語救急箱』, ピアソン・エデュケーション, 東京.
- 久埜百合 (2005) 『英語が好きになる 小学校の英会話活動—ゲームと歌あそび—』, 小学館, 東京.
- McArthur, T. (1981) *Longman Lexicon of Contemporary English*. Harlow: Longman.
- McWhinney, B. (2000) *The CHILDES Project: Tools for analyzing talk. 3rd Edition. Vol. 2: The Database. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.*  
<http://childes.psy.cmu.edu/data/>
- 松原健二 (1987) 「教科書の語彙に現実性—中学校英語教科書の内容語を考える—」, 『英語教育』, 36(10), 28-30.
- 松川禮子 (1997) 『小学校に英語がやってきた—カリキュラムづくりへの提言』, アプリコット, 東京.
- 松川禮子 (2003) 『小学校英語活動を創る』, 高陵社書店, 東京.
- 松村敏以 (2004) 「英語生活語彙指導の実際」, 『第30回全国英語教育学会長野研究大会発表要綱』, 262-265.
- 文部科学省 (2001) 『小学校英語活動実践の手引き』, 開隆堂出版, 東京.
- 毛利公也 (2004) 『英語の語彙指導あの手この手』, 溪水社, 東京.
- 中山兼芳編 (2001) 「基本重要語彙及び連語」『児童英語教育を学ぶ人のために』, 世界思想社, 京都, 324-334.
- Nation, I. S. P. (1990) *Teaching and Learning Vocabulary*. Boston: Heinle and Heinle.
- Nation, I. S. P. (2001) *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 西垣知佳子, 中山博 (2004) 「実践的英語コミュニケーション能力の養成のための理論と実践—教育学部と附属中学校の連携研究—」『教科教育研究』, 日本教育大学協会第二常置委員会編, 22, 17-30.
- 西垣知佳子, 中條清美, 岩楯弘美 (2006) 「海外・国内英語絵辞書の出現語彙とその比較」『英語表現研究』, 22-23, 33-44.
- 小野博 (2005) 「小学校における身につく英語学習法の開発」『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第26回 (25周年記念) 全国大会資料集』, 67-69.
- 大津由紀雄 (2005) 『小学校での英語教育は必要ない!』, 慶應義塾大学出版会, 東京.
- 阪本一郎 (1962) 「子どもの語彙(2)」『児童心理』, 193, 103-122.
- 椎名紀久子, 中條清美, 竹蓋幸生 (1988) 「幼児・児童向け絵単語集の分析的考察—コミュニケーション能力育成のための教材を考える」『日本児童英語教育学会研究紀要』, 7, 17-27.
- ソニー株式会社教育事業室 (1979) 『Word Basket Dictionary』, ソニー株式会社, 東京.
- 高橋秀夫, 竹蓋幸生, 村田年, 大塚達雄, 水光雅則, 椎名紀久子, 西垣知佳子, 土肥充, 竹蓋順子 (2001) 「英語CALL教材の高度化の研究」『言語文化論叢』, 9, 1-22.
- 竹蓋幸生 (1997) 『英語教育の科学—コミュニケーション能力の養成を目指して』, アルク, 東京.
- 竹蓋幸生, 水光雅則 (2005) 『これからの大学英語教育』, 岩波書店, 東京.
- 武井昭江 (2002) 『英語リスニング論—聞く力と指導を科学する』, 河源社, 東京.
- 鳥飼玖美子 (2006) 『危うし! 小学校英語』, 文藝春秋, 東京.
- 築道和明 (1997) 「巻末資料: 基本語彙リスト」『英語授業改革双書No. 16 小学生の英語指導』, 明治図書, 東京.
- 鶴田庸子 (1991) 「住んで知った生活語彙の威力」, 『英語教育』, 39 (13), 46-49.
- 山田雄一郎 (2005) 『英語教育はなぜ間違っているのか』, 筑摩書房, 東京.
- 山家保 (1966) 『新しい英語教育』, 英語教育協議会 (ELEC), 東京.
- 渡邊時夫 (2006) 「英語活動を充実させる指導のポイントの検討—「方法」をどう見直したいか」, 影浦攻・小学校英語セミナー委員会編『小学校英語セミナー』, 明治図書, 東京, 20-21.

付 録

名 詞							
ターゲット語	上位語	下位語					
mother	people	family	finger	body	arms & legs		
father			thumb				
grandfather			hand				
grandmother			elbow				
brother			arm				
sister			toe				
dad			foot				
mom			leg				
uncle			knee				
aunt			pet			animal	pets
cousin			dog				
people			cat				
man			mouse				
woman			rabbit				
boy	squirrel						
girl	frog						
kid	turtle						
baby	goldfish						
friend	snail						
teacher	animal	animal	farm animals				
farmer	cow						
birthday	horse						
name	sheep						
head	pig						
face	goat						
hair	donkey						
neck	elephant			animal	zoo animals		
eye	giraffe						
eyebrow	zebra						
ear	hippopotamus						
nose	rhinoceros						
chin	leopard						
cheek	lion						
mouth	tiger						
tooth	bear						
tongue	gorilla						
beard	polar bear						
mustache	monkey						
nail	kangaroo						
	camel						
	deer						

小学校英語における日常生活語彙の指導

panda			seed				
raccoon			grass				
alligator			wood	nature	materials & substances		
crocodile			rock				
snake			sand				
fish	animal	marine animals	shell				
whale			light				
seal			fire				
octopus			noise				
penguin			shadow				
lobster			snow				
shark			rain				
puppy			animal	baby animals	wind	nature	weather & space
kitten					sky		
chick					moon		
lamb	sun						
bird	star						
chicken	animal	birds	rocket	nature	geography		
rooster			beach				
duck			farm				
goose			mountain				
parrot			cave				
eagle			hill				
flamingo			top				
turkey			airplane			community	transportation
owl			plane				
bug			helicopter				
bee	motorcycle						
ant	bicycle						
beetle	bike						
grasshopper	ship						
butterfly	boat						
caterpillar	train						
worm	car						
spider	truck						
bone	animal	body parts	tractor				
tail			bulldozer				
feather			wheel				
horn			tire				
wing			school				
flower	nature	plants	playground				
tree			store				

apartment	community	places	salt	family life	living room				
zoo			sofa						
bridge			table						
street			rug						
house	family life	house	picture	family life	bedroom				
home			mirror						
barn			clock						
room			desk						
garage			drawer						
kitchen			chair						
floor			mail						
door			trash						
window			closet						
mailbox			bed						
telephone			pillow						
bathroom			blanket						
basket			family life			bathroom	clothes	family life	clothes
comb							sweater		
towel	coat								
toothbrush	shirt								
bath	dress								
bathhtub	jacket								
soap	pants								
bubble	pajamas								
refrigerator	button								
oven	pocket								
stove	hole								
spoon	family life	kitchen	earrings	family life	personal belongings				
knife			gloves						
fork			mittens						
plate			bracelet						
dish			pin						
napkin			belt						
cup			sunglasses						
saucer			ribbon						
glass			hat						
bottle			bag						
bowl			umbrella						
pan			tie						
garbage			purse						
sugar			dollar						
pepper			penny						

小学校英語における日常生活語彙の指導

shoes	family life	shoes	peach	food	vegetables
sneakers			strawberry		
boots			pear		
socks			cherry		
slippers			grapefruit		
broom	family life	tools & equipment	watermelon		
needle			pineapple		
string			carrot		
rope			corn		
ladder			tomato		
flashlight			lettuce		
screwdriver			pumpkin		
shovel			mushroom		
hammer			bean		
brush			pea		
candle			potato		
box			food	beverages	milk
suitcase					juice
bucket					water
chalk					coffee
notebook	tea				
paper	school life	classroom	ice		
book			breakfast		
eraser			lunch		
pen			supper		
pencil			dinner		
crayon			food		
letter			meat		
glue			bread		
scissors			toast		
rubber			sandwich		
cage			hamburger		
medicine			cheese		
alphabet			butter		
color			cereal		
circle			rice		
shape	noodle				
fruit	food	fruits	spaghetti		
orange			pizza		
apple			soup		
banana			salad		
grape			egg		

cake	food	desserts & snacks	recorder	entertainment	events
cream			drum		
cookie			stick		
candy			bell		
chocolate			picnic		
popcorn			tent		
pie			movie		
jelly			circus		
honey			clown		
yogurt			magic		
nut			camp		
peanut			song		
puzzle	entertainment	toys	castle	entertainment	story characters
block			monster		
flag			king		
piece			queen		
game			dragon		
toy			dinosaur		
doll					
balloon					
puppet					
mask					
whistle					
swing			entertainment		
slide	ターゲット語	上位語		下位語	
sandbox	cook	action & movement		cooking & eating	
sled	eat				
ball	drink				
bat	bite				
tricycle	cut				
kite	break				
snowman	mix				
baseball	pour				
basketball	bake				
soccer	do				
volleyball	make				
piano	take				
violin	go				
bow	put				
guitar	walk				
xylophone	see				
flute	watch				
	look				
	sleep				
	paint				
	knock				

小学校英語における日常生活語彙の指導

help	action & movement	daily life activities	swim		
hold			sink		
wake			dance		
open			show		
close			read		
pull			write		
fix			draw		
pick			stand		
dump			sit		
wear					
drop					
drive					
fall					
wash					
wait					
kiss	action & movement	feelings	形 容 詞		
hug			ターゲット語	上位語	下位語
scare			red	condition	color
like			blue		
want			yellow		
laugh			green		
cry			purple		
play			brown		
ride			pink		
jump			white		
hop	black				
kick	gray				
turn	dirty	condition	objects		
roll	clean				
climb	hard				
throw	soft				
hit	fast	condition	time & order		
catch	next				
touch	last				
blow	big	condition	size & weight		
fly	little				
push	tall				
hurt	giant				
dig	heavy	condition	weather & temperature		
hide	hot				
sing	cold				
skate	wet				
	dry				
	hungry	condition	feelings & attitudes		
	thirsty				
	good				
	right				

happy		
sad		
kind		
busy		
sick		
fun		